

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 8月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1090100106
法人名	株式会社ケア・コスモス
事業所名	グループホームルルドの家
所在地	前橋市公田町1165番地 (電話) 027-265-6222

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月25日

## 【情報提供票より】(20年 7月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人, 非常勤 4人	常勤換算 14.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,950~47,250 円	その他の経費(月額)	寝具代 1日150円
敷金	有		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 110000~130,000	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	又は1日 1,200円		

### (4) 利用者の概要(7月 10日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.27 歳	最低 61 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉本病院 ・ 万代歯科診療所
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利根川沿いに隣接した緑豊かな住宅地にあり、入居者が安心して散歩を楽しむ等自然を活かした生活を送ることができる環境にある。また、ホーム敷地内も手入れの行き届いた芝生とベンチが設置され、通りかかった人の目からもその地域に溶け込んでいるような概観となっている。入居者の心を癒せるケアをモットーに、家庭的な雰囲気の中、一人ひとりの職員がより良いサービスの提供を心がけている。運営母体の変更に伴い、これまでの改善点を一つひとつ見直そうとしている段階である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で改善課題となっていた、地域・家族との連携、自己評価への取り組みについては、①地域向けに施設紹介パンフレットを作成中②家族への行事参加の呼びかけの実施など、進行中のものはあるものの、改善に向けた努力を行っている。しかしながら、現段階で地域との関わりは希薄であり、今後の更なる努力が期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、評価の意義について理解しているが、自己評価活用における改善のための取り組みは為されていない。また今回の自己評価について、他の職員との共有は為されていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、同法人の事業所であるグループホームみどり荘と2ヶ月毎に開催し、ホームの利用状況や行事等の報告を行っている。会議メンバーに、以前は家族の代表が参加していたが、現在家族の参加はない。また評価結果の報告等は行っていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族がホームを訪問された折、健康状態、金銭管理、日々の暮らしぶり等について報告している。また心身の変化が見られる際は、その都度電話で報告を行っている。職員の異動は少ないが、事情により異動が発生した場合は、入居者に報告している。運営に関する苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記し、且つ口頭で説明が為されている。玄関に意見箱を設置している。入居者は何か不都合があると直接職員に話し、問題解決を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>納涼祭、老人会に招待され参加はしているが、自治会には参加しておらず、地域の情報は得にくく、近隣とのかかわりは殆どない状況である。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来、心を癒せる介護をモットーに「人権と意思を尊重、笑顔で過ごせる生活支援」を理念に謳っている。	<input type="radio"/>	地域密着型サービスとしての地域との関係性を強化した内容を、職員で創りあげていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホールに掲示している。管理者と職員は、職員会議で理念について話し合いを行っているが、共有されていない。	<input type="radio"/>	管理者と職員が共に理念について話し合って共有し、共通認識の下日々の実践に活かしていただきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の納涼祭や老人会に招待され参加しているが、自治会には参加しておらず、地域の情報は得にくく、近隣とのかかわりは殆どない状況である。	<input type="radio"/>	日頃の関わりや自治会に参加したりホームの行事に招待したりする等、地域の人々と交流が図れるような取り組みをしていただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義について理解しているが、現状では評価の活用には至っていない。また、今回の自己評価は管理者が行い、他の職員との共有がされていない。	<input type="radio"/>	管理者、職員の積極的な自己評価への参画を通じて、入居者へのサービスの質の向上を図っていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、同法人のグループホームみどり荘と合同で2ヶ月毎に開催している。会議では、ホームの利用状況や行事等の報告を行っている。評価結果の報告等は行っていない。会議メンバーには、以前は家族の代表が参加していたが、現在家族の参加はない。	<input type="radio"/>	運営推進会議のメンバーの見直しをし、出席者からの具体的な意見交換を行うことができるよう働きかけをしていただきたい。今回の自己評価、外部評価結果を会議で報告し、意見をもらうよう取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会をつくりホームの状況報告を行い、サービス上の問題等があると市の担当者と相談し、問題解決にあたり、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族がホームを訪問された折に、健康状態、金銭管理、日々の暮らしぶり等について報告している。また心身の変化が見られる際には、その都度電話で報告を行っている。職員の異動は少ないが、事情により異動が発生した場合は入居者に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記し、口頭で説明をしている。また、玄関に意見箱を設置している。入居者は、何か不都合があると職員に話をして、問題解決を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入れ替わりは少なく、事情により異動が発生した場合は、入居者の状況に応じた説明を行い、入居者へのダメージを防ぐ配慮が為されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者の意向で地域密着型サービス連絡協議会には加入しておらず、情報が得難い状況である。職員は、ホーム開所当初は交代で研修を受けていたが、近年は研修会等参加実績はない。今年度、県主催の新人セミナーを受講予定である。	○	他からの情報を得られるよう努力するとともに、積極的な研修参加が望まれる。また、事業所内に於いても勉強会を開く等技術向上のための機会を得られるよう今後の工夫をしていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム等との交流の機会もたれていない。管理者、ケアマネジャー等の研修は参加し、重要項目は職員へ伝達されている。今後、職員の経験年数に応じ、段階的に研修を受講できるように検討している。	○	他のグループホームの見学や交換研修を実施し、一人ひとりの職員が技術向上の機会を得、それらを日々の介護に活かせるよう、職員育成に役立つ取り組みをしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者がホームや他の入居者に馴染むような機会もたれていない。運営母体の変更に伴い、今後サービス利用開始方法について検討と変更を行っていく予定である。	○	入居者本人や家族が、ホームの見学や体験宿泊を通して雰囲気を知ることができ、円滑なサービス開始となるようなサービス利用システムの検討と実施が期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の下ごしらえ、配膳や後片付けを、入居者の能力に応じて職員と共に行っている。昔の話を聞いたり、すいとんの作り方を教えてもらう等、コミュニケーションを大切にしながら一人ひとりの入居者を尊重し支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅を希望する時は、家族に相談し外泊を行う等、可能な範囲で本人の意思や希望の実現に励んでいる。意思の把握が困難な場合は、家族や職員同士のミーティングを通じ情報を得よう努力し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から日頃の関わりの中で要望を聞き、また毎月のカンファレンスや職員会議で全入居者のニーズについて話し合い、ケアマネージャーが取りまとめてプランとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎の見直しとなっているが、毎月のカンファレンスやモニタリングを経て、入居者の心身の状態変化や家族の意向等により随時プランの見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院送迎をし、受診時の状況を家族に報告している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人を運営母体とし、母体がかかりつけ医となっていたが、経営母体変更に伴い、現在は本人と家族の希望を優先したかかりつけ医による医療が受けられるようにしている。また、ホームとして医療機関と協力関係を構築し、適切な医療を受けられるよう対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し医療行為が必要な場合は、早期に家族に相談を行うなどしているが、ホームとして方針が定められていない。今後は、重度化や終末期ケアのあり方について、本人、家族、かかりつけ医と相談のうえ方針を決定していきたいという希望を持っている。	○	重度化、終末期ケアのあり方について、早期から本人、家族、かかりつけ医を交えて話し合いの場を繰り返し持ち、方針を共有していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議やカンファレンス時に、職員の意識向上を図るようにしている。会議等により、入浴時等の同性介護や排泄時のさりげない声かけや対応を徹底している。また記録物等個人情報の取扱いは、入居者が目にしない場所で記入し、事務室の鍵のかかる戸棚に保管し、注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、朝寝坊した人へはゆっくりと朝食を取ってもらう等入居者のペースに合わせた柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、入居者の好みを聞いてメニューに取り入れている。また、一緒に作りやすい一品を加える等の工夫をして、野菜の下ごしらえをしたり、食事の準備や後片付け等を、職員と一緒にやっている。食事は、職員と入居者が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日となっており、本人の希望、体調、日常生活動作の状況等に応じ、一般浴、特浴、シャワー浴で対応している。入浴が困難な場合や希望に応じて、清拭対応や希望に応じた入浴日や時間の変更が可能であり、柔軟な対応が出来ている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に、洗濯物たたみ、掃除、草むしり、落ち葉掃きなどを行っている。塗り絵、ちぎり絵、壁画作成、お茶を楽しむなど楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調を勘案し、毎日近所を散歩したり、買い物や外食等外出支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が見えにくいいため、安全性を最優先し玄関は施錠されている。しかし、確認が可能なホールの縁側は鍵をかけておらず、庭に出たい時には自由に出ることが出来る。	○	玄関の施錠回避のための検討、工夫をしていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で避難訓練を実施し、避難所は隣接施設(みどり荘)となっている。近隣住民へ災害時の協力依頼は為されていない。また備蓄は行っていないので、今後検討予定である。	○	マニュアルを作成し、年2回は消防署の協力を得て避難訓練を行う、また近隣住民への協力依頼、理解促進のための働きかけを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、入居者の好みを聞きメニューへ組み入れ、栄養バランスを考えた献立を作成している。体調により粥食や刻み食を提供している。食事量、水分摂取量はチェック表にまとめられ、その情報を職員が共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入ると観葉植物、季節の花が窓際に飾られ、ゆったりとしたスペースとなっている。ホールにはテーブル、椅子、テレビ等があり、台所からのご飯の炊ける匂いを感じることができ、居心地良く過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には、時計、テレビ、家族の写真等思いおもしろい品々が置かれ、好みの洋服がハンガーにかけられている。どの部屋も清掃が行き届いており清潔感があり、本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。		